

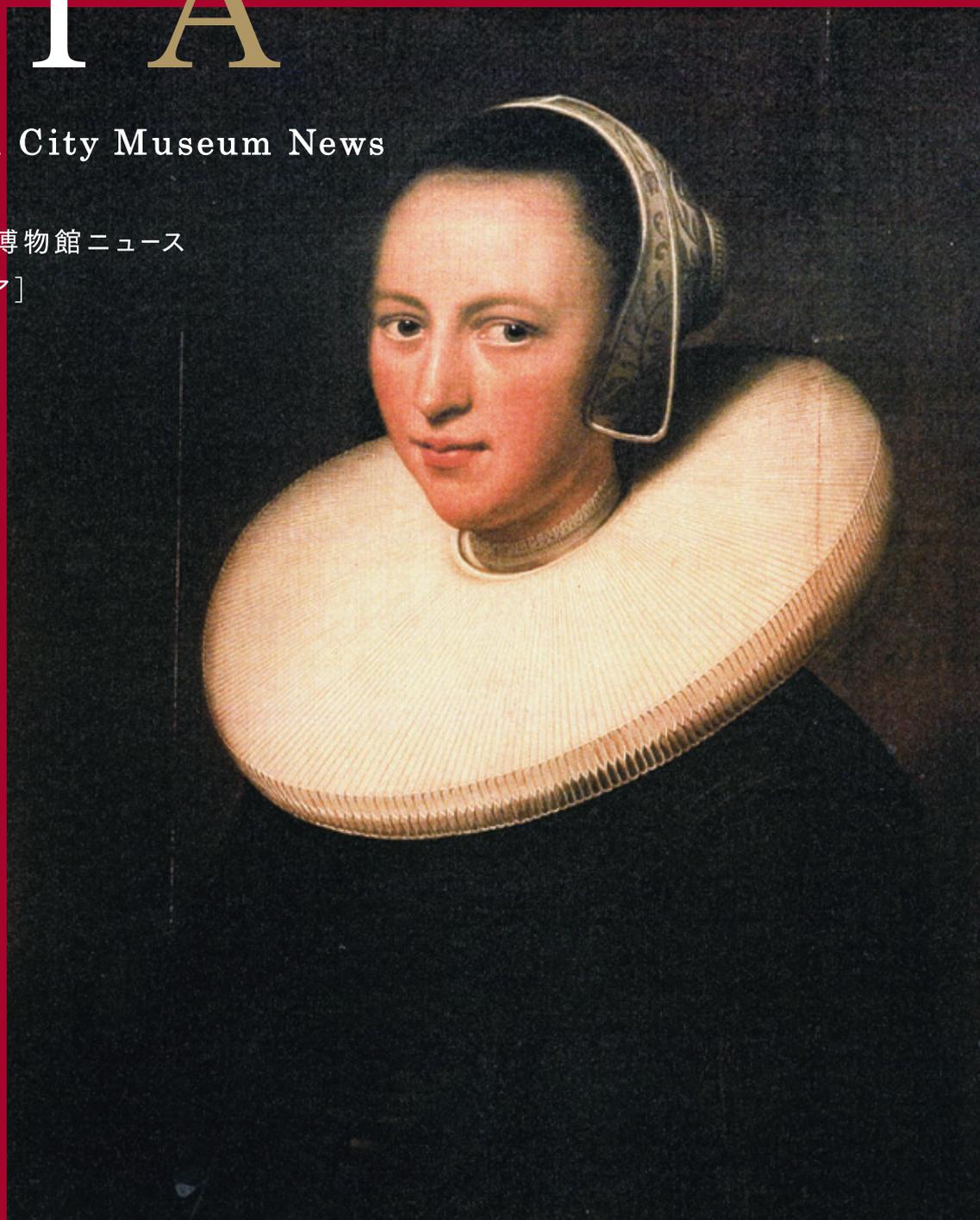
AR CA DIA

68

AUTUMN 2016

Okazaki City Museum News

岡崎市美術博物館ニュース
[アルカディア]



岡崎市美術博物館 20年の歩み

History of 20 years

1996
|
2006





1996-2006年の年度別展覧会は本紙29号に掲載されています。(バックナンバーは当館ホームページでご覧いただけます。)

ブリュッゲルと バロックの巨匠

ルーベンス、レンブラント、ベラスケス、光と影の天才たち

高見翔子

この度開催される企画展「ブリュッゲルとバロックの巨匠 ルーベンス、レンブラント、ベラスケス、光と影の天才たち」では、チエコ共和国のプラハ国立美術館をはじめ、ポーランドのヨハネ・パウロ二世美術館、フランスのシャルトル会修道院美術館に所蔵されるヨーロッパ各国のバロック絵画四十五点を展覧いたします。

バロック芸術の巨匠たちには、誰もが一度は聞いたことのある名前が多く見られます。カラヴァッジョ、レンブラント、ルーベンス、ブリュッゲル、ベラスケスなど、バロックの時代には多くの芸術家たちが活躍しました。今日では高い評価を受けているバロック芸術ですが、「バロック」とは本来ポルトガル語で「歪んだ真珠」を意味する「Barroco(バロッコ)」に語源を持ちます。つまり、「バロック」という言葉は当時、イタリア・ルネサンスに対し、規則から外れた美術を指す蔑称として用いられていました。この言葉が軽蔑的な意味を離れて美術史の中において再評価されたのは、十九世紀のスイスの美術史家ヴェルフリンによる著作『美術史の基礎概念』(一九二五年)における考察からでした。

EXHIBITION

バロック芸術は、十六世紀初頭にドイツやスイスで起こった宗教改革の影響を大きく受けて十六世紀末から十八世紀初頭にイタリアを起源として成立しました。当時、プロテスタントは、聖書と信仰のみによる合理的な神の理解を訴えたために、原則として聖像の礼拝を禁止しました。それ

に対して、カトリックは、視覚イメージによつて聖書の言葉をより身近にし、理性よりも感情に訴えて信仰心を昂揚させようと宗教美術を積極的に利用しました(反宗教改革)。そのため、反宗教改革の求めた美術について、ドイツの美術史家ウィトカウアーがあげた特色は、①わかりやすさ(単純明快さ)、②写実性(主題の現実的解釈)、③情動性(感情への刺激)の三点があります(注1)。

宗教的に混乱した背景の中で生まれたバロックの絵画には、光と影のドラマチックな表現を特徴とする作品が多く見られます。ルネサンスの絵画では、様な光とものの立体感を出すためにつける影に限られた表現が見られました。それに対して、バロックの絵画では、観る者の視線を特定の部分に引きつけるスポットライトのよう

に、暗い空間のなかで一部分だけが光を浴びているという構図が特徴的です。本展では、ルーベンスやレンブラントをはじめとする画家の作品にその特徴を多く見ることができません。

十七世紀に黄金期をむかえたフランドル絵画には、聖書や神話の物語を題材として劇的に作品を描いたルーベンスに加えて、農民の主題や宗教主題と風景、風俗などの現実的要素を組み合わせた様式を確立したピーテル・ブリュッゲル(父)とその一族が後世に非常に大きな影響を与えています。ブリュッゲル一族は、十七世紀フランドル絵画にひとつの潮流を形成するに至るほどでした。十七世紀初頭に活躍したフランドル派の画家が描いた題材にも、ブリュッゲルとの影響関係を見ることができま。本展においては、「地獄のピーテル」と「花のヤン」の異名を持つブリュッゲル兄弟の作品が特別出品されます。

ブリュッゲル兄弟については、兄のピーテル(子)と弟のヤン(父)に見られる共通点や相違点などが多く論じられてきました。彼らが制作した作品を比較すると、ヤン(父)は、父の影響をさほど感じさせない独自の様式

会期：平成28年10月1日(土)～11月27日(日)

- 注 1. 宮下規久朗「カラヴァッジョ 聖性とヴィジョン」、名古屋大学出版会、2004年、20頁。
 2. 森洋子「ブリューゲル一族の祭典」、12頁、『アントワープ王立美術館所蔵 黄金期フランドル絵画の巨匠たち展』、読売新聞社、2001年、10-45頁。
 3. 森洋子「ピーテル・ブリューゲルと二人の息子の年譜」、62頁、『明治大学教養論集』406号、明治大学教養論集刊行会、2006年、43-80頁。
 4. 森、前掲論文(注2)、2001年、13頁。
 5. 同上、21-22頁。
 6. 森、前掲論文(注3)、2006年、62頁。

や構図を示しながら、とりわけ花の静物画などを得意として十七世紀フランドル絵画の先駆者的な役割に位置付けられています。ヤン(父)に対して、ピーテル(子)は彼のオリジナルの作品に加えて、父の作品の複製も多く制作しています(注2)。

ピーテル(子)の獨創性について、一六二六年以降、彼は父の複製制作に加えてオリジナル作品を積極的に制作するようになっていったとされています(注3)。彼のオリジナル作品は、マurlリエの研究(一九六九年)によると、最も初期の制作年代は一五九五年であり、最も遅い時期では一六三六年とされており、七〇歳以上になっても精力的に制作を行っていました(注4)。例えば、ピーテル(子)の作品《シント・ヨリスの縁日》(一六二六年以降、アントワープ王立美術館所蔵)では、農民の風俗描写を試みっていますが、画面の中景では酔った農夫が農婦のスカートをめくるといったわずらも描かれており、聖と俗の行事が異時同図的に描かれています。ピーテル(父)は、このような悪ふざけを画面に挿入することは好まなかった(注5)とされており、この点にピーテル(子)の独自

EXHIBITION

性を見出すことができます。

本展に出品されるピーテル(子)の《東方三博士の礼拝》【図1】の他に、ピーテル(子)は同じ題材を扱った父の作品の複製も制作しています【図2】。しかし【図1】は、ピーテル(父)の作品(一五五六年頃と一五六四年制作の二点がある)と比較するとその構図が父のものとは大きく異なっていることがわかります。【図1】の制作は、一六二六年(オリジナル作品を積極的に制作するようになった時期)を境にそれまでのP. BREVEGHELからP. BREVEGHELにサインを変更しています(注6)。後に描かれたものとされています。キリストの公現を主題としながらも、その画面は主題よりもフランドルの風俗的な場面に焦点が絞られており、描かれている人々の表情もユーモラスに表現されています。

本稿ではブリューゲル兄弟を中心に採り上げましたが、本展ではブリューゲルの他にもバロック絵画の巨匠による珠玉の名画たちをご覧いただけます。本展がより多くの方にとって美術に親しんで頂けるきっかけとなれば幸いです。



【図2】 伝ピーテル・ブリューゲル(子)《東方三博士の礼拝》
油彩/カンヴァス、143×172cm、アントワープ王立美術館、Inv. No. 847



【図1】 ピーテル・ブリューゲル(子)《東方三博士の礼拝》
油彩/板、39×56cm、プラハ国立美術館、Inv. No. O42
©National Gallery in Prague 2016

「幻の画家」、「孤高の画家」、「謎の画家」…。

大正・昭和期、画壇に属さず黙々と制作を続けた洋画家長谷川湊二郎（一九〇四―一九八八）は、遅筆にして寡作、作品発表の場が少なかった為しばしばこの様に称されます。しかし、写実的でありつつも幻想的な独特の画風は、活動当時から一部の高名な批評家、画商の間で高く評価されていました。そして近年、大規模な回顧展が開催されたことで、改めて多くの人に注目されています。

本展ではこの伝説的作家に魅了された岡崎市のコレクター、故・藤井純一氏が長年集められた油彩画、版画やモチーフ等多数の貴重な資料を通して、湊二郎作品の魅力をご紹介します。

湊二郎は新聞記者の次男として北海道、函館に生まれました。兄は小説家で、自身も兄の影響を受け一時期小説を発表、二人の弟も文学者、詩人・小説家として活躍しました。反権力の父や、流作家の兄、海外文学の翻訳や戦争体験を綴った弟、と皆時流に敏感であったのに対し、湊二郎は時代の状況に依らない制作態度を生涯貫き通しました。

湊二郎は幼い時から絵を描き、油彩画を始めたのは中学校入学頃です。初

期の作品には草土社やキュビズムの影響を示すものがありますが、徐々に独自の画境を開いていきます。一九二四年、上京し川端画学校に入学するも数ヶ月で退学、独習で洋画を学びます。一九三二年には渡仏しますが、画風は揺らぐむしろ滞在時の写生を通して光や風景の表現、作画への信念を確固たるものにし、一年程で帰国します。その後数回の二科展出品の他はほぼ個展を開くのみで、晩年までひたすら制作を続けました。

ご覧頂く作品は主に風景画と静物画です。日用品など身近なものを描いているにも関わらず、作品は時間や場所、状況を特定し難い、現実離れた雰囲気満ちています。例えば《静物》（一九七九年頃）では、絶妙の間隔で机上に配されたフライパンや卵、食器が描かれています。机と同系色で塗られた背景によって奥行きは消され、見る者の視線は手前のモチーフに集中します。モチーフは机、食器、卵の黄身に至るまで全て青みがかった色合いで統一され、画面全体に静けさを醸し出します。左奥の片口の器には陶器の滑らかな質感が表現されているのに対し、手前の青い皿は卵の白色を映し、つややかに光っている点が印象的です。奥のガラスの器に目を向ける

EXHIBITION

と、器は光を受けて反射し、窓と人影のようなものを映し出しており、見る側の意識は机の上から離れて新たな想像を掻き立てられます。

私達は複数の物を見るとき、必ずどこかに焦点を当てます。全てを同等の意識で、しかもじっくりと時間をかけて見ようとはしません。しかし湊二郎はモチーフのなかに中心的な存在を作らず、それぞれを等しく熟視し克明に描写します。その為ありふれた物を描いた作品でありながら、私達は不思議な違和感を持つて見るようになります。

この様に、作品を湊二郎と同様にじっくりと見ることで次々に新たな魅力に遭遇します。まっさらな気持ちで作品に向き合うことは、日常生活では得られない新鮮な体験になるのではないのでしょうか。湊二郎が対象を丹念に観察し描くことで何を表そうとしたのか、ぜひ展覧会に足をお運び頂き、感じてください。



《静物》1979年頃 油彩、カンヴァス 27.4x45.4cm

企画展

藤井コレクション

長谷川湊二郎展

菊地真央

会期：平成28年12月3日（土）～平成29年1月22日（日）

祝一〇〇万人達成

堀江登志実

平成二八年八月三日、美術博物館の開館以来の入場者数が一〇〇万人となりました。一〇〇万人の方は「岡崎の美術一〇〇年展」に名古屋市緑区から来られた白井久さんと、内田岡崎市長から記念品が、榊原館長からは花束が贈呈されました。

当館は平成八年七月六日に開館しておりますので、入館者数二〇〇万人達成は開館二〇年目ということになります。五〇万人目は平成一六年四月三〇日ですので、一〇〇万人達成までに一二年間かかっております。その間、改修工事で一年間の休館があります

館が一回の展覧会で何万という入場者があつた大規模な巡回展は数が少なく、自主企画展などによ

りこつこつと入館者を稼いできたというのが実際です。展覧会の評価は入館者数だけでは言い切れず、さまざまな角度から入館者数にこだわることが、入館者数にこだわるのが館に勤める者の習癖です。最近に入館者数減の傾向があり、一〇〇万人が視野に入ってから心待ちの状態、やっと達成できたというのが実感です。今年も岡崎市制一〇〇周年、一〇〇万人と二〇〇周年、お目出度いことが重なりました。一〇〇万人という数字に込められた努力に思いをはせ、まずは一〇〇万人達成を素直に祝福したいと思います。

COLUMN & TOPIC

今年度から管理班に四人、学芸班に二人が岡崎市美術博物館のスタッフとして仲間入りしました。

管理班班長 小林亮

今回、美術博物館管理班に、新たに四人が仲間入りさせていただきました。展覧会の企画には直接携わること

はありませんが、イベント等では関連することも多く、美術博物館を大いに盛り上げていこうと考えています。開館して二〇年が経過し、この八月には一〇〇万人目のお客様を迎えることができました。これは、市民をはじめ、たいへん多くの皆様から岡崎市美術博物館が愛されている証だと考えています。これからも、積極的に足を運んでいただける美術博物館を目指していきます。

学芸員 菊地真央

今年の春より当館学芸員になりました菊地真央と申します。昨年採用の通知を頂いてから

新たなスタッフが加わりました！

初出勤日まで、岡崎市美術博物館はどこなところなのだろうかと思いを巡らせておりました。住所に「峠」とあるからには素人ではそう易々と越せないような険しい山の上にあるのか…あるいは噂によると「新人は厳しくしごきますよ」と微笑みを浮かべていた学芸員さんがいるのかい…

妄想や噂に振り回され、不安で眠れぬ夜もありました。が実際に、見晴らしの良い公園内の建物で、皆様に優しく親身になつてご指導いただき、ということでも有難い環境で仕事をさせて頂いております。今後とも職員の皆様、そしてご来館される皆様にはどうかご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

学芸員 高見翔子

新しく西洋美術の担当学芸員として採用されました、高見翔子です。大学では、現代美術について勉強していました。趣味は、美術館での鑑賞や楽器の演奏などです。

出身は愛知県なのですが、岡崎市のことは知らないことも多くあるので、岡崎市についても理解を深めていきたいと思っています。また魅力的な展覧会を打ち出していきたいと考えています。ちなみに趣味のサクソフォンでは、吹奏楽やポップスの楽曲の演奏をしてきたので、「ジャズの街岡崎」では新たにジャズの演奏にも挑戦してみたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



INFORMATION

■平成28年度特別企画展

ブリュッゲルとバロックの巨匠

平成28年10月1日(土)～11月27日(日)

■講演会

ブリュッゲル作品とフランドル絵画の魅力

日時:10月23日(日)午後2時～

講師:中田明日佳氏(国立西洋美術館研究員)

■美術講座

バロック絵画の愉しみと魅力

日時:11月6日(日)午後2時～

講師:高見翔子(当館学芸員)

■ギャラリートーク

日時:10月15日(土)・10月29日(土)・11月12日(土)・11月26日(土)午後2時～

■平成28年度企画展

長谷川湊二郎展

平成28年12月3日(土)～平成29年1月22日(日)

■講演会

「内なるリアリズムー長谷川湊二郎の画業と生涯」

日時:12月11日(日)午後2時～

講師:大下智一氏(北海道立近代美術館主任学芸員)

■ギャラリートーク

日時:12月17日(土)・12月23日(金・祝)・平成29年1月15日(日)午後2時～

■平成28年度やさしいミュージアム講座(後期)

【博物】速修!古文書講座ー岡崎藩士緒方家の古文書を読む

講師:当館学芸員・岡崎古文書研究会幹事

日時:平成28年11月～平成29年3月の毎月第3金曜日 10時30分～

応募条件:古文書の講座等の受講歴がある方

【美術】狩野探幽について

講師:榎原悟(当館館長)

日時:平成28年11月～平成29年3月の火曜日(全4回) 午後2時～

①11月8日 肖像画家探幽

②12月6日 松平直矩との交友

③2月7日 探幽の寵童趣味

④3月7日 探幽様の継承

*申込方法:往復はがきの往信面に参加者全員の、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・性別・電話番号を明記の上、下記までお申し込みください(返信面の宛名面には、返信先の住所・氏名等ご記入ください。当館HPからお申込みいただけます。申込期限10月21日(金)必着

村松和明(当館学芸員)著

『もっと知りたいサルバドール・ダリ 生涯と作品』(東京美術)がこの度出版されました。



旅のスズメー青森編ー

九月初め、涼を求めて青森県へ向かった。青森の三内丸山遺跡(国特別史跡)は縄文時代前期中期末にかけて長期間継続した大集落跡で、広大な敷地に多くの堅穴住居や長さ三二m、幅一〇mもある大型堅穴住居、高さ十五mと推定される大型掘立柱建物、道路跡の両側に列状に並ぶ多数の墓穴などが意図的に配置されており、その規模と技術力の高さに驚き、縄文時代のイメージが大きく覆された。隣接する青森県立美術館は真つ白な「ホワイトキューブ」の展示室と三和土の床と壁が露出する「土」の展示室が対立、共存している不思議な空間で、開館十周年記念展「根と路」は、まさに三内丸山遺跡に象徴される縄文に創造の原点をたずね、青森の大地に根ざした新たなアートを探求する「路」を行く。縄文と現代が共生し、交錯する、意欲的な展覧会であった。翌日は日本三大霊場の一つ下北半島の恐山へ。二〇〇年前に慈覚大師円仁により開かれた霊場一帯は、強烈な硫黄の匂いが立ちこめ、火山ガスの噴出する荒涼とした岩場は「地獄」を連想させる。積石の並ぶ賽の河原を抜けると、白い砂浜と澄んだ水を湛えた湖が広がり、まさに「極楽」のよう。しかし湖岸に供養の花や風車が並ぶ様はもの悲しく、境内を見渡す丘の上に祀られた延命地藏菩薩が慈悲深い微笑を湛えていた。青森の大地に交錯する過去と現代を体感した旅であった。(浦)

おしゃべり、あれこれ。

勝手気ままな私的散策ノート

「子どもの成長は早い」身をもって感じた。最近、関東に住んでいる姉の家に行った。姉には四人の娘がいる。三番目と四番目は双子だ。才四ヶ月の姪は数ヵ月前に会ったときは歩いていなかったのに歩いていて、私が抱き上げると行きたいところを指さす。小さな怪物だと思いつつも、かわいので姉の家にいる間は言いなりにあって過ごした。私がいふことを聞いてくれる人間だと学習した姪は、退屈になるとすぐ抱っこをせがんできた。私の娘二人はこの四月から高校、中学のそれぞれ一年生で、私も美術館一年生だ。私は、新しい環境に慣れるのに時間がかかる。ようやく最近慣れてきた様な気がする。子どもはいつても全力で精一杯だから成長が速い。順応するのも速い。守ってくれる人が周りにいるから挑戦をする。たくさん挑戦をするからその分失敗もする。でも、私が信じていたいのは、大人も元々は子どもなのだから、何歳になっても成長し、周りに支えられて挑戦し続けることが出来る。娘や姪に速さは負けるが、私も成長できるはずだと思いたい。私はいくつまで成長できるのだから。少しは成長できているのだから。(今)

編集後記 | 今号ではオープンからの展覧会を並べてみました。10年前の本誌29号にも10年間のポスターが掲載されていますが、比較するとその数の差に驚かされます。数と言えば来館者数100万人を達成しました。これからも来館者1人ひとりにご満足いただけるよう新しいスタッフとともども“こつこつ”努力してまいります。(湯谷)

表紙図版:レンブラント・ファン・レイン《襷襟を着けた女性の肖像》1644年 ヨハネ・パウロ二世美術館



開館時間 午前10時～午後5時

※最終の入場は閉館時間の30分前まで

休館日 月曜日(祝日に該当する場合は、その翌日以後の休日でない日)

年末年始 ※展示替えのため臨時休館する事があります。

[岡崎市美術館ニュース/アルカディア] 第67号 2016年5月発行

編集・発行 岡崎市美術館(マインドスケープ・ミュージアム)

〒444-0002 愛知県岡崎市高隆寺町1-1 岡崎中央総合公園内

TEL.0564-28-5000(代表)

岡崎市美術館

<http://www.city.okazaki.lg.jp/museum/index.html>

ARCADIA